




会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 液体	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	-----------------	---------------------


		
	安全データシート	

作成日：2015年11月12日

## 1. 化学品及び会社情報

製品名/化学品の名称	WD-40 液体 / 有機混合物
会社名	WD-40 カンパニー
住所	1061 Cudahy Place (92110) P.O. Box 80607 San Diego, California, USA 92138 -0607
電話番号	緊急専用：1-888-324-7596 (PROSAR) 情報案内：1-888-324-7596 漏えい時：1-800-424-9300 (ケミトレック) 国際電話：1-703-527-3887
推奨用途	潤滑剤、浸透剤、防湿剤、リムーバー、表面腐食防止剤

## 2. 危険有害性の要約

<b>GHS分類</b>		
物理化学的危険性	引火性液体	区分3
健康に対する有害性	吸引性呼吸器有害性	区分1
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分3(神経系)
<b>GHSラベル要素</b>		
絵表示		
<b>注意喚起語</b>	危険	
危険有害性情報	H226 引火性液体および蒸気 H304 飲み込んで気道に侵入すると生命に危険のおそれ H336 眠気またはめまいのおそれ	
<b>注意書き</b>		
【安全対策】	P210 熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけること。禁煙。 P233 容器を密閉しておくこと。 P240 容器を接地すること。アースを取ること。 P241 防爆型の電気機器、換気装置、照明機器を使用すること。 P242 火花を発生させない工具を使用すること。 P243 静電気放電に対する予防措置を講ずること。 P261 ミスト、蒸気の吸入を避けること。 P271 屋外又は換気のよい場所でのみ使用すること。 P280 保護手袋を着用すること。	

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 液体	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	-----------------	---------------------

【応急措置】	<p>P301+P310 飲み込んだ場合：直ちに医師に連絡すること。</p> <p>P331 無理に吐かせないこと。</p> <p>P303+P361+P353 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣服を全て脱ぐこと。皮膚を流水又はシャワーで洗うこと。</p> <p>P304+P340 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。</p> <p>P312 気分が悪いときは医師に連絡すること。</p> <p>P370+P378 火災の場合：消火するために、噴霧水、粉末消火薬剤、炭酸ガス、泡消火剤を使用する。</p>
【保管】	<p>P403+P233 換気のよい場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。</p> <p>P405 施錠して保管すること。</p> <p>P403+P235 換気のよい場所で保管すること。涼しいところの置くこと。</p>
【廃棄】	P501 内容物、容器を地方自治体及び国の法規に従って廃棄すること。

### 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物		
化学名/一般名	CAS番号	含有量(wt.%)	GHS 分類
脂肪族炭化水素	64742-47-8	50-70	引火性液体：区分3 特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)：区分3(神経系) 吸引性呼吸器有害性：区分1
石油系オイル	64742-56-9 64742-65-0 64742-53-6 64742-54-7 64742-71-8	<25	区分外
非有害性成分	混合物	<10	区分外

### 4. 応急措置

飲み込んだ場合	吸引性呼吸器有害性があるため吐かせてはならない。直ちに医師、救急センターまたは WD-40 救急ホットライン 1-888-324-7596 に連絡すること。
眼に入った場合	水で十分に洗眼する。コンタクトレンズを付けている場合は、洗浄開始から5分後に外し、さらに続けて数分間洗う。刺激が続く場合は医師の手当てを受ける。
皮膚に付着した場合	水と石鹼で洗浄する。もし刺激がひどくなったり、継続する場合は、医師の手当てを受ける。
吸入した場合	刺激を感じたら新鮮な空気のところに移動する。もし刺激がひどくなったり、継続する場合は、医師の手当てを受ける。
最も必要な徴候症状(急性、遅発性)	飲み込むと有害または致命的である。飲み込んだ場合は、吸引し、肺の損傷を引き起こす可能性がある。長時間の皮膚接触は皮膚の乾燥を引き起こす可能性がある。ミストまたは蒸気を吸入すると、鼻や気道の炎症や頭痛、めまいや吐き気などの中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。
医師に対する特別な注意事項	飲み込んだ場合は、緊急の医療措置が必要である。

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 液体	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	-----------------	---------------------

## 5. 火災時の措置

消火剤	噴霧水、噴霧水、粉末消火薬剤、炭酸ガス、泡消火剤を使用して消火する。
使ってはならない消火剤	棒状水または氾濫するような多量の水を使用してはならない。燃烧している製品が表面に浮かび、火災が拡大する。
特有の消火方法	消火を行う者は常時、圧力自給式呼吸器と完全防護服を使用する。火災に曝らされているタンクを水で冷却する。
特有の危険有害性	可燃性液体と蒸気。蒸気は空気より重く、表面を移動して離れた着火源まで到達し、フラッシュバックを起こすことがある。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	すべての着火源を取り除き、付近を換気する。適切な保護具を着用する(8項を参照)。
環境に対する注意事項	要求に応じて当局に漏出を報告する。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	液体を、不活性な吸収剤を使用して封じ込めて集めて廃棄用の容器に入れる。漏出区域を徹底的に浄化する。要求に応じて当局に漏出を報告する。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	
安全取扱い注意事項	眼との接触を避ける。長時間の皮ふとの接触を避ける。蒸気やミストの吸入を避ける。適切な換気をする。熱、火花、熱面および裸火から遠ざける。取扱後は水と石鹼で十分に洗う。使用していない場合は容器を密閉する。子供の手の届かないようにする。
安全な保管条件および混触危険物質	涼しく、よく監視された場所で、混触危険物質と離して保管すること。消防法第二石油類

## 8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	成分	ばく露限界値
	脂肪族炭化水素	1200 mg/m <sup>3</sup> TWA (製造者推奨)
	石油系オイル	5 mg/m <sup>3</sup> TWA (inhalable) ACGIH TLV (鉱物油として) 5 mg/m <sup>3</sup> TWA OSHA PEL (オイルミスト、鉱物として)
	非有害性成分	未確定

一般消費者用としての管理	
技術的管理	よく換気された場所で使用すること。
保護具 眼	眼との接触を避けること。安全メガネまたはゴーグルが推奨される。
皮膚	皮ふとの長時間の接触を避けること。皮膚との接触の可能性のある操作では耐化学薬品手袋が推奨される。
呼吸器	換気のよい場所で通常使用の場合、呼吸器保護具は必要ない。

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 液体	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	-----------------	---------------------

多量に扱う場合または職場での使用の場合の管理	
技術的管理	暴露水準を作業環境許容濃度以下に維持するために、適切な全体排気装置及び局所排気装置を使用すること。
保護具 眼 皮膚 呼吸器	眼との接触の可能性があるところでは安全ゴーグルが推奨される。 耐化学品手袋を着用すること。 換気が適切であれば不要である。もし稼業環境許容濃度を超える場合は、法規や公的基準(例えば JIS T8150 など)に準拠した呼吸器を付けること。呼吸保護具の選択と使用は、汚染物質の種類、形状および濃度に基づいて行わなければならない。 労働安全衛生法および JIS T8150 に準拠すること。
衛生対策	取扱後は水と石鹼で十分に洗うこと。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理的状态、形状、色	淡琥珀色の液体
臭い	マイルドな石油臭
臭いの閾値	確立されていない
pH	確立されていない
融点	確立されていない
沸点	160-198° C (脂肪族系炭化水素)
引火点	43° C (脂肪族炭化水素)
蒸発速度	確立されていない
燃焼性(固体、気体)	確立されていない
VOC	533 grams/liter (65%)
燃焼限界	LEL: 0.7% UEL: 5.6% (脂肪族系炭化水素)
蒸気圧	確立されていない
蒸気密度	1より大(空気=1)
比重	確立されていない
溶解性	水に不溶
分配係数;n-オクタン/水	確立されていない
自然発火温度	確立されていない
分解温度	確立されていない
粘度	確立されていない
流動点	確立されていない

## 10. 安定性及び反応性

反応性	非反応性
化学的安定性	正常な保管と取扱のもとでは安定
危険有害反応可能性	危険な重合は起こらない
避けるべき条件	熱、火花、炎および他の発火源
混触危険物質	強酸化剤
危険有害な分解生成物	一酸化炭素、二酸化炭素、煙霧、未燃焼炭化水素

## 11. 有害性情報

過度暴露による症状	
吸入	ミストまたは喉と肺を刺激する。高濃度暴露は、鼻や呼吸器への刺

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 液体	最新改定日 2016年5月13日
--------------------	-----------------	---------------------

	激や、頭痛、めまいや吐き気などの中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。意図的な乱用は有害または致命的である。
皮膚への接触	長時間および/または繰り返し接触は軽度の炎症や皮膚炎で脱脂を生ずる可能性がある。
眼への接触	接触により眼に刺激を与える。赤眼、刺すような痛み、腫れや引き裂き感の原因となることがある。
飲み込み	この製品は低経口毒性である。もし飲み込んだ場合、口、咽喉や食道への刺激を引き起こす可能性がある。嚥下は胃腸刺激、吐き気、嘔吐、下痢、めまい、眠気や他の中枢神経系への影響を引き起こす可能性がある。この製品は、吸引呼吸器有害性である。飲み込んだ場合、肺に入る可能性があり、化学性肺炎、重度の肺の損傷や死亡の原因になる可能性がある。
慢性症状	ないと予想される。
暴露により悪化する健康状態	既存の眼、皮膚および呼吸器の症状が暴露によって悪化することがある。
発がん性物質の疑い	なし
製品成分の評価により、この製品の経口毒性は 5,000 mg/kg より大きく、経皮毒性は 2,000 mg/kg より大きいと推定される。この製品は確率された基準により毒性には分類されない。吸引呼吸器有害性である。	

## 12. 環境影響情報

環境有害性	現在のところ水生環境毒性に関するデータはない。しかしながら、この製品の成分からは水生環境に有害とは予想されない。
残留性・分解性	製品成分は容易に生分解すると予想される。
生体蓄積性	製品成分の評価からは生体蓄積性はないと予想される。
土壤中の移動性	データなし。
その他の有害性	知られていない。

## 13. 廃棄上の注意

国際、国、地方自治体の規制に従って廃棄すること。 容器の内容物が残ったまま廃棄しないこと。
--

## 14. 輸送上の注意

国連危険物輸送勧告 IMDG、ICAO、	国連番号 1268 石油蒸留物又は石油製品(他に品名が明示されているものを除く。)クラス3 容器等級 III
危規則	引火性液体類(III)
輸送上の注意	WD-40 カンパニーは、航空機輸送の場合の容器の差圧適合試験や他の要求試験を実施していません。WD-40 カンパニーは当社の製品を航空機輸送することを推奨しません。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法	第3種有機溶剤等 (該当成分:ミネラルスピリット)
	危険物・引火性の物 (引火点30℃以上65℃未満のもの)
	名称等を通知すべき危険物及び有害物 (該当成分ミネラルスピリット)
	名称等を表示すべき危険物及び有害物 (該当成分ミネラルスピリット)

会社名 WD-40 カンパニー	製品名 WD-40 液体	最新改定日 2016年 5月 13日
--------------------	-----------------	-----------------------

消防法	危険物第4類第2石油類
-----	-------------

## 16. その他の情報

改訂箇所	最新の改訂箇所は本文に下線をつけています。
輸出時の注意	本 SDS は製品を日本国内で上市するためのものです。海外に本製品を輸出する場合は、輸出先国での法規に従った製品の取扱・使用、危険有害性の分類および SDS・ラベルの提供が必要です。
免責事項	記載内容は当社の最善の努力で作成していますが、記載内容については必ずしも安全性を十分に保証するものではありません。また品質機能を保証するものでもありません。取扱に際してはお客様の責任において、用途・用法に適した安全な使用条件を設定していただきご使用ください。